



**Welcome
Gifu**



Sustainability Park



●はじめに

岩野田北まちづくり協議会が開設する岩野田北まちづくりサロンは、地域のまちづくりについて、住民が自由に意見を交換し、提案し合う場です。

公園に恵まれない私たちの岩野田北地区に接した畜産センター公園は、大切な空間です。近年、さびれている状況に心を折られるようでしたが、今回の再整備計画には、大いに勇気づけられています。

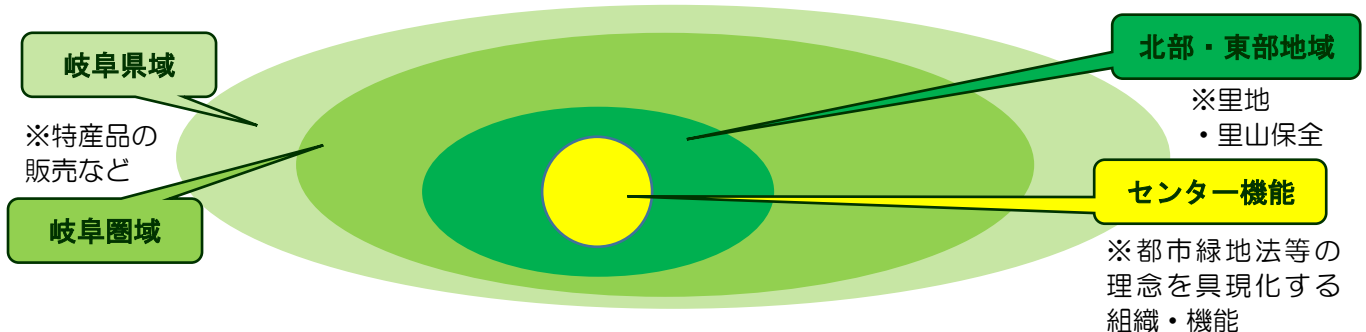
つきましては、次世代の子供たちが自然の中で様々な体験をし、学ぶことができるよう、また、緑地保全をはじめ地域課題の解決・活性化の機能について、サロンとして取りまとめた内容についてご提案させていただきます。(なお、特に記載している場合を除き、具体的な内容については、計画案のゾーンごとに提案するものではありません。合理的に配置し、複数のゾーンに重複することも想定した提案としています。)

令和7年2月

A コンセプト・ミッション

- ①「岐阜市民」公園の名称は、市民限定をイメージさせるため、広域的な利用に供し、目指すべきミッションを発信する、親しみやすい、分かりやすいネーミング(愛称)とする。
- ②SDGs や「里地・里山」(生活文化も含む)の保全など、社会課題・地域課題にアプローチすることも、再整備計画の重要な柱として打ち出し、基本方針に加える。
- ③基本コンセプトは、「緑」一辺倒でなく、「山林と不可分の関係にある水」も合わせて、「自然(緑と水)」とし、公園整備に当たってはもっと「水」を活用。【Cを参照】
- ④基本コンセプトの「わくわく体験」は、より具体的目標、例えば「楽しく遊び・自然とに学び・(家族や仲間、そして社会課題へのアプローチを通じ)みんながつながる」など示す。
- ⑤関連法や上位計画も踏まえ、再整備によって公園が担うべきミッションごとの取り組み・内容について、別添の「里山プロジェクト(仮称)」等一覧表を例に、再整備計画及び開設後の展示やガイドブック等に明記。
- ⑥来園者が、受動的のみならず、能動的に⑤のミッション達成に向けたアクションプログラムに参加する仕組みづくり(各種ボランティア活動相談、間伐材やFSCの玩具購入、保護犬チャリティ協力、体験講座など)。
- ⑦上記の⑤⑥に関連し、特に耕作放棄地、放置竹林などの里地・里山の抱える課題を踏まえ、課題解決に向けた施策の一環を、整備計画や事業に反映。【Gを参照】
- ⑧「緑地保全」に向け、公園内の管理・運営にとどまらず、市内や近隣の「里地・里山」を対象に施策を推進する組織機構と位置付け、地域や関係機関等と協働して施策を推進。
- ⑨上述のミッションを達成するための先駆的な取り組みは、必要に応じてモデル事業として実証実験を行い検証・導入することとし、ロードマップに位置付け、進捗管理。
- ⑩再整備で得られる地域活性化、環境保全をはじめとする、さまざまな波及効果に係るシミュレーションのもとに積極的かつ効果的に直接投資する一方、必要に応じてPPP手法を採用する。

●広域的な価値を生み出す組織として期待されるセンター機能



- ⑪オールシーズン楽しむことのできる公園として、かつ四季折々の講座・イベントの開催を整備計画の段階から検討に付し、所要の施設・備品を整備。【Dを参照】

B マスコット・キャラクター

- ①公園のシンボルとして公式マスコットを制作(複数でも可)。
- ②玄関口には、①の巨大なマスコットがお出迎え。
- ③マスコットを設置する花壇は、地上レベルより低い田んぼ花壇とし、夏場は古代米や田んぼアートを、冬場はレンゲを植栽するなど公園の特徴を醸し出す。
- ④マスコットに込めた趣旨や公園の基本方針に関する分かりやすい案内板を設置。
- ⑤田んぼ花壇は、子どもたちの田植えの体験場として活用。【Dに再掲】

- ♥来園者にワクワク感を持ってもらいます。
- ♥おもてなしのメッセージ役に。
- ♥里山への郷愁を掻き立てます。
- ♥公園の全容をイメージさせます。

公式マスコットに私はどう?

ハロウィン帽子を変えてね

冬はマフラーだね

梅雨時期はミノガサをお願い

田んぼアートの花壇だよ。
春は県の花レンゲが満開!!

ウェルカム・キャラクターと田んぼ花壇

引水も必要だね



C 水の活用

①川遊びを楽しみ、多様な生態系に触れ、清流を体感できる施設を整備。例えば、水車を設置、粉ひき体験させるなど、里地・里山を体験学習できる空間として活用。

②オールシーズン楽しめる公園とするため、夏は低床池と間欠泉、冬はスケートリンクを楽しめるエリアとして整備。(ふれあいゾーンが適しているのではないのでしょうか)【Mを参照】

③フナ(最近では鳥羽川にもあまり見かけません)、メダカ(地域に見かけないため三輪、山県産になるのでしょうか)、ドジョウ、タニシ(いずれも地域に生息)、イシガメ、クロモ(いずれも地域に見かけません)などの在来種の観察池を整備。

④公園に生息しているとのホタルを必要に応じて人工繁殖し、展示するなど観察可能に。ホタルまつりも開催。



D 食育・野外体験・イベント

以下に例示する講座やイベント等を企画するとともに、実施に必要な屋外・屋内施設を整備されたい。

●食育の取り組み

- ①山菜・野草・薬草・木の実などの料理教室及びアウトドアクッキング教室
- ②収穫体験と芋蔓・柿などの収穫物の保存や料理教室【Fを参照】
- ③田植え体験【Bを参照】
- ④芋汁まつり(木田地区)、ミョウガボチなど地域の食文化の発信
- ⑤料理室は貸し出しも可



●野外教室の開催

- ⑥摘み草遊び、薪割り体験など
- ⑦どんぐりコマ、竹とんぼづくりなど
- ⑧炭焼き体験【E・Gを参照】
- ⑨泥んこ遊び、水遊びなど



●その他

- ⑩犬のしつけ教室
- ⑪屋根付きの野外ミニステージは貸し出しも可

●イベントの開催

- ⑩凧揚げ大会
- ⑪キャンプファイヤー
- ⑫里山の起源にさかのぼり縄文時代の土器づくり
- ⑬左義長(どんど焼き)
- ⑭落葉焚き。焼きいも
- ⑮野外グルメまつり(アユなどの炭火焼き)



E 飲食・ショッピング

- ①炭(バーベキュー用及び竹炭)の製造・販売。【Dを参照】
- ②シビエ、ヤギのチーズなどの加工・販売。
- ③国産蜂蜜ほか、県や近隣自治体の特産品販売。
- ④キッチンカーエリアの確保。
- ⑤シビエ料理や薬草料理などの提供。
- ⑥肥料・堆肥の販売。
- ⑦愛犬グッズ(ステッカー、服、首輪など)の販売。収益金の一部は、犬猫の保護活動経費に充てる。【Aを参照】
- ⑧間伐材や竹を使った玩具やFSCの製品の販売。【Aを参照】



▲イラストは大規模な滞在型のクラインガルテン妙高(HPより引用)。年間利用料金431,700円。県内の滞在型は、揖斐川町、高山市、恵那市、郡上市、瑞浪市などに。

F クラインガルテン



- ①滞在型・日帰り型の農園の開設(宿泊施設・シャワー・農機具のレンタルなど)。【A・Gを参照】
- ②田畑の宅地化に歯止めがかからず開発が進む周辺地域と早急に連携し、現行の市民農園の制度をより使いやすい制度とするほか、公園内に限らず滞在型・日帰り型農園を先行開設。
- ③オーガニックコットン、食べられる野草、薬草、桑畑や柿畑などの**実験農園の開設**(②と同様、敷地内及び周辺地域と連携、先行開設)。【Dを参照】
- ④農作業相談の実施。



G 地域との連携

- ①グリーンインフラの活用について、公園内だけでとらえるのではなく、市内の里地が急激に宅地化され、低家賃の集合住宅が乱立、短期居住者が増加するなど近い将来、ダウンタウン化も懸念される現状を踏まえ、これら都市計画上の課題に対して解決策を講じ、良質な生活空間の形成を図るとともに、持続可能な社会基盤を実現するための有効な施策・制度を検討・実施。【A、Fを参照】
- ②同じく、里山の**放置竹林対策**として、竹炭、メンマ加工販売、粉碎肥料化、家畜の飼料化及び公園内における竹チップ舗装材の採用など。【A、Eを参照】
- ③同じく、**間伐材の活用策**として、炭焼き体験、薪割り体験、薪ストーブ(ゲストハウスや喫茶に設置)、キャンプファイヤー、玩具製作販売(高校美術部に依頼)など。【A・Eを参照】
- ④近接する如来ヶ岳(一等三角点の周知と山道整備)、眉山(山頂の前方後円墳の周知)など、周辺の山林への回遊性を図る。観察会や山登りも開催。
- ⑤周辺を回遊するレンタサイクル及び安全な散策道・自転車道の整備。
- ⑥東海自然歩道の活用。

▶頼山陽が滞在したとき命名した眉山の岩野田北からの眺めは、徳島市の観光名所の眉山より秀麗なたたずまい?!
如来ヶ岳など、山登りのツアーを開催すると良い。



◀センター周辺の竹林でハチクが、120年に一度の開花が見られた(令和4年4月)。このような機会をとらえて観察会を開催すると良い。

H 周辺施設の充実・連携

- ①「薬草園」の拡充と連携。
- ②「みつばちの家」との連携。

I 県内自治体等との連携

- ①ジビエや特産品(ボーンポークや飛騨牛など)の販売。【E を参照】
- ②体験学習をはじめとする運営に際しては、少年自然の家、県内の里山公園、木遊館など類似機関との連携・ネットワーク化。

J ジオラマ・展示室・植物園

●ジオラマ

- ①公園内及び周辺の案内を兼ねたジオラマ(山、野鳥などの自然及び寺社、野仏、古墳などの見どころ並びに散策道、サイクリングロードなどの案内)を制作・設置。また、市内の里地・里山(北部・東部など)の全体像も分かると良い。
- ②周辺の里山の文化に関し、つたえ話(眉山の「五郎吉岩」、如来が岳から移された済法寺にまつわる「観音さまの山下り」など)の紹介。

●展示

- ③公園内と周辺の植物(草、広葉樹、どんぐりの木等)の写真など。
- ④ホタルの幼虫や、蚕の実物展示(桑の植栽活用)。【C、F を参照】
- ⑤里山の昔の暮らし(北部や東部地域)の紹介。
- ⑥SDGsの啓発。【A を参照】
- ⑦ボタンを押すと雨が降り出し、山林・水田と、はげ山・宅地との水の湛水能力の違いが分かる模型などで、里地・里山の大切さを啓発。
- ⑧エコプラント椿の紹介と堆肥の販売。

●里山植物園

- ⑨ゾーン分けに限らず、生育環境に合った複数のゾーンに配置。
- ⑩ロックガーデンや水辺環境など、生育環境を再現。
- ⑪椿洞及び北部等地域に見られた(る)植物(ササユリ、イワカガミ、シュンラン、ツリガネニンジン、ガマ、フユノハナワラビ、カンアオイ、スズメウリ、カラスウリ、カヤなど)も植栽・紹介。
- ⑫四季折々の植物(フクジュソウ、シモバシラ、ミスミソウにはじまりフジバカマまで) 栽培難易度の高いセツブンソウ、クリンソウ、カタクリ(山県市の比較的近隣に群生地あり)にも挑戦。
- ⑬フクジュソウ、カタクリなどは、里山ゾーンの傾斜地に群落形成による花の名所を目指す。



▲岩野田・岩野田北で最も古い石仏(貞享元年・1684年)は、センターから北の八幡神社境内に

♥️ 周辺地域の里地・里山の文化・歴史を訪ねてもらう。



▲カラスウリ(十六グラウンド付近)

K アクセス

- ①県と連携を密にして、県道栗野安食線に歩行者道路を連続的に整備。
- ②山県市も含め、周辺地域から子どもたちが徒歩や自転車で訪れることのできる安全な道路の確保。
- ③公共交通、ラッピング・シャトルバスなどの運行。
- ④近年、周辺地域には外来種(ナヨクサフジ、ヒサウチソウ、オオカナダモなど)が増殖し、植生は大きく変化し、中でも特定外来種のオオキンケイギクが常磐地区から公園に至るメイン道路、県道安食栗野線の十六グラウンド付近、鳥羽川の堤防に繁茂する。については、来園者にもイメージが悪いことから、地域と連携するとともに、危険な場所については行政で除去。



▲県道(十六グラウンド付近)
沿いのオオキンケイギク



▲畜産センター北駐車場の北側
の県道交差点

L 防災

- ①災害時に、テントを設営したり、炊き出しに供えるなど、キャンプ施設が活用できるよう、必要な施設・備品を整備。
- ②手押しポンプの井戸を、子どもの遊び・体験も兼ねて、キャンプ場ほかに何力所か設置。
- ③公園内での消水防訓練が許可されなくなりました。来園者にも防災を啓発する意味も踏まえ、地域の防災訓練にも活用できるような多目的エリアを確保。

M その他

- ①子どもたちがふれあうことのできる動物のほか、ヤギなどの家畜についても、チーズの加工・販売に役立てることも視野に飼育。【E を参照】
- ②デイキャンプにふれあいゾーンを使うのはもったいないので、芝生広場の周囲でもテント張りできるように、スペースを確保。【C を参照】
- ③施設や家具などに、間伐材や竹を活用。【A・G を参照】
- ④高齢者の移動手段も兼ねて、園内を周遊するポニーの馬車や自動運転バスの導入。
- ⑤バリアフリーのほか、ユニバーサルデザインへも配慮。
- ⑥ベンチ、東屋、水飲み場などの設置。
- ⑦鶉飼や岐阜城など市内観光地への誘導手段・展示など。
- ⑧サイン計画に、風見鶏などの小道具も活用。
- ⑨サイン計画の一環として、里山植物園はじめ各コーナーに趣旨説明の案内板を個々に設置。
- ⑩公園内の主たる樹木に、樹齢も記した名札の設置。
- ⑪PPP 事業方式に加え、周辺地域との連携が必要かつ効果的な協働事業の検討・実施。【A を参照】

